

国際会議「HYDRO2018」

(1) 開催期間

平成 30 年 10 月 15 日（月）～17 日（水）

(2) 開催場所

AMBEREXPO Centre（グダニスク/ポーランド）

(3) 開催概要

本会議は、欧州域内で毎年開催されている水力発電に関する国際会議であり、今回の“HYDRO2018”は 10 月 15 日（月）～17 日（水）に開催された。

開会セッションでは、ポーランド水力発電協会（PHA）会長、ポーランド小水力発電協会会長、国際大ダム会議（ICOLD）会長、IEA 水力事務局、国際連合工業開発機関（UNIDO）再エネ・地方電化団長、世界銀行（WB）水力シニアスペシャリスト等のスピーチがあった。閉会式では、ICOLD 会長他より閉会スピーチがなされた。

また下表のとおり、36 のセッションで多くの発表が行われた。この中で、IEA 水力実施協定関連では、Annex-9(水力発電の多様な価値)と新 Annex-16(Hidden Hydro)に関するセッションが行われた。当該会議では、個々の発表に加えて約 180 の機関や民間会社のブースが設けられた。

表 1 HYDRO2018 プログラム

月日	午前	午後
10/15 (月)	開会式・基調講演 1:プロジェクトの構築と資金管理 2:開発機会 3:水力機械:研究開発 4:土木:設計と施工(1)	2:開発機会 5:契約と調達 6:水力機械 7:土木:設計と施工(2) 8:水力の役割の変化と営利との関連性 9:潜在的な計画・プロジェクトの実行 10:水文学・気候・洪水管理
10/16 (火)	11:水力と揚水発電サービスの価値 (IEA session) 12:革新的技術 13:土木作業:安全性(1) 14:魚保護 15:土木作業:安全性(2) 16:国境を越えたプロジェクト 17:水力発電と環境	18:揚水発電(1),(2) 19:土木:材料 20:多目的水力 21:社会的影響 22:放水路 23:貯水池の運用 24:Nam Theun 2 の運用から見た 環境的・社会的見識
10/17 (水)	25:発電所の安全とサイバーセキュリティ 26:増強と改修 - 土木 27:小水力(1) 28:ゲートと導水路 29:キャパシティビルディングと トレーニング 30:水力発電所の改修 31:小水力(2) 32:堆砂管理	33:再生可能エネルギー-問題 34:Hidden Hydro の特定と開発 (IEA session) 35:O&M 36:電気工学 総括・閉会式

(4) Annex-9（水力発電の多様な価値）に関する活動成果の紹介(Session11)

- ・本会議の Conference Sessions のうち Session11 において、下記タイトルで日本より Annex-9 に関する活動成果として揚水発電の知見を紹介した。
- Review of existing studies on valuing energy services in Japan – K. Ota, Kansai Electric Power Co, Inc., Japan
- Lessons learned from an assessment of pumped storage schemes in Europe – M. Takahashi, Kansai Electric Power Co. Inc., Japan; M. Urayama, Japan Electric Power Information Centre, Inc., Japan; N.Nielsen, Kator Research Service, Australia

(5) Annex-16（Hidden Hydro）に関する活動成果の紹介(Session34)

- ・本会議の Conference Sessions のうち Session34 において、下記タイトルで日本より Annex-16 に関する活動内容として日本における Hidden Hydro の事例を紹介した。
- Needs for identification of the potential for hidden hydro not addressed through traditional approaches to hydropower development planning in Japan – Y. Miyanaga, CRIEPI, Japan
- Overview of hidden hydro in Japan – H. Murashige, JEPIC, Japan